

令和7年度

パピーナ西荻北保育園

すくわくプログラム

テーマ： 巧緻性

活動 指先の巧緻性

活動スケジュール

ボタンのはめ外しに挑戦し、つなげていくと長くなることを体験する。

3歳児クラス

環境をデザインする

●準備した物 ボタンのついたフェルト

日にち	令和7年7月10日
時間	30分
参加人数	15人

探究活動を実践する

●活動内容

どうしたら長くなるか考える

ボタンのはめ外しに挑戦する

「同じ」「違う」「長い」「短い」を体験する

●子どもたちの様子

「ボタンって見たことあるかな？」と尋ねると、「ママとパパの仕事のお洋服についている」と、答える姿があった。赤と青のフェルトを3本ずつ取る場面では、指で「いち、に、さん」と数える子もあり、自分で数を確認しようとする様子が見られた。ボタンとめでは「赤と青を1つずつ取って繋いだよ」と言葉で教えてくれた。「1つのときと比べてどうかな？」と尋ねると、「長い!」と気づき、さらに別の組み合わせを見て、「短い」も思い出し、「長い」「短い」の言葉の違いを理解しようとする姿があった。「長い、短い、長い、短い」と口にしながら、リズムよくボタンを繋いでいく様子も見られた。

●振り返りをふまえた気づき

担任より



ボタンの留め外しでは自分でスムーズにできたり保育者に補助してもらったりとそれぞれの姿が見られた。やり方が分かると一人で出来るようになった児もいた。短いフェルトを繋げて腕輪を作ったり、長いフェルトを繋いで頭に巻いたり長さの違いで作るものを工夫しながら楽しむ姿が見られた。

講師より

ボタンの色や本数に注目しながら、指で数えたり声に出して数えたりする姿から、数量への関心が育ってきていることを感じた。「長い」「短い」といった言葉にふれながら、実際に比べて違いを確かめたり、繰り返し言葉にしたりすることで、ことばの意味を理解しようとする気持ちの育ちを感じた。ボタンのとめ外しで指先を何度も動かし、その経験を通して得た気づきをもとに、活動への興味や楽しさが広がっていた。

令和7年度

パピーナ西荻北保育園

すくわくプログラム

テーマ： かず

活動 数唱、集合数

数を正確に数え、数字と量の一致を理解する

環境をデザインする

●準備した物 積み木

活動スケジュール

4歳児クラス

日にち	令和7年7月10日
時 間	30 分
参加人数	15 人

探究活動を実践する

●活動内容

お話の中で数を探してみる

数に合わせて積み木を並べてみる

部屋の中で数を探す

●子どもたちの様子

「3つあるものはどれかな？」と問いかけると、「お話に出てきたもの全部！」「林檎」「ケーキも3、女の子は食べられるけど男の子のはいないな」などと、物語の中から「3」に関わるものを見つけられた。「3ってどういうこと？」という問いかけると、3本指で表す子もいた。「みんなで3叩いてみよう！」と、リズムよく手を叩いて「3」に親しんだ。「3このおやつを書いていくよ！」と伝え、「みつつあるおやつなんだろう？」と興味をもって考え始め、先生ジェスチャーをヒントに、じっくり考える様子も見られた。

●振り返りをふまえた気づき
担任より



身近な数字である3について学んだ。ホワイトボードに貼ってある絵の枚数を数えたり、講師が3は他にどのような言い方があるかにも注目し、問い掛けると「みつつ」や「スリー」など考えながら答える姿が見られた。同じ数字でも様々な表現方法があることに気付くきっかけとなっていた。

講師より

物語の中に出てくるものの数に注目し、「3つあるもの」を意識的に探す姿から、集合数への興味や理解が深まっていると感じた。「指で3を表す」など、自分なりの表現で3を伝えようとする姿もあり、数量とことばや動作とのつながりを意識するきっかけとなっていた。リズムにのせて手を叩いたり、おやつヒントをもとに想像をふくらませたりしながら、楽しさの中で「3」という数に親しむことができていた。今後も子どもたちの数への興味を大事にし、生活の中でも興味を育てていけるような取り組みをしたい。

令和7年度

パピーナ西荻北保育園

すくわくプログラム

テーマ： かず

活動 量

重さ比べ、水の量の不思議を視覚と触覚を通して体験する

環境をデザインする

●準備した物

重さ比べの箱、色水、透明な大きさの異なる入れ物

探究活動を実践する

●活動内容

重さをもって比べる

入れ物により、見た目が違う不思議を体験する

●子どもたちの様子

2つの箱を見て「同じ顔!」「同じ大きさ?」「頭の色が違う!」と、外見の特徴に気づくことができた。「見ただけで重さが分かる?」と尋ねると、「手を天秤みたいにして持ってみる!」という声上がり、実際に持って重さを比べ、想像と違う結果に驚くのも見られた。量比べでは、同じコップに同量の水が入っているのを確認し、細い容器と太いのに注ぎ比べると、「細いほうが多い!」という声が多く上がった。繰り返し移し替える中で、興味をもって見続ける姿があり、「同じだ!」「細いから多く見える!」といった気づきが子どもたちから自然に出てきた。



●振り返りをふまえた気づき

担任より

見た目と実際の感覚での違いがあることに驚きの感情を見せていた。講義内容に興味を惹かれて次の体験に更なる期待をよせて参加していた。どちらが重いかや見え方が違うのはなぜかと問われた際に、自分なりの考察をすることも楽しみ行っていた。

講師より

実際に手で持って確かめて、見た目が同じでも重さが違うことに気づくことができ、予想と実際の違いを楽しみながら考えようとする姿勢が育ってきていることを感じた。水の量比べでは、容器の形によって見え方が変わることには驚き、水の量の不思議を感じることもできた。そして繰り返し確かめることで「同じ量でも見え方が違う」とことのおもしろさをクラス全体で共有しながらも、それぞれが重さや量といった抽象的な概念への興味を持つきっかけとなったように思う。